

## マルチスライスCT導入

放射線技師 木内康之  
看護師 伊藤昌代

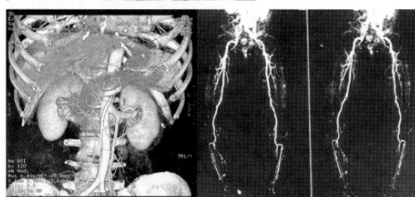
当院では患者さまに優しい最新型のCT装置を導入しました。「64列式マルチスライスCT」と呼ばれる装置で、旧型と比較して次のような特長があります。

まず、検査時間が短くなりました。従来は1回転で1画像しか撮影できませんでした。最大64画像撮影できるようになりました。また、撮影時間を短縮する為ガントリと呼ばれる中心に丸い穴の開いた箱の中、X線管球が高速で回転しています。従来は1回転1秒でしたが、最速0.4秒に高速化されました。これらの技術革新により旧型と比べ最大約16倍の速さで撮影可能となりました。以前は約30秒前後の息止めを必要とした肺の検査も約4.5秒で終わってしまいます。頭部から下肢にかけて広範囲の検査をしたとしても最速10秒の撮影で終了し、長時間の息止めによる苦痛を軽減しています。

次に、精密検査が可能となりました。これまで腹部、下肢などの血管を観察したい場合入院が必要でカテーテルを用いたDSA(血管造影検査)もありませんでした。新しいCTはシャープペンシルの芯と同じ細さ(0.625mm)で人体を輪切りにして観察することができ、これらの精密な情報を基に、血管情報として三次元で作成し診断します。手術前情報としての血管造影検査はこのマルチスライスCT検査に変わります。特殊な例として、2.5mm以内の心臓の冠動脈血管の検査にも対応できます。血管、心臓の検査以外にも骨、関節など整形外科領域でも広く利用されています。立体的な構造を理解する為に役立つ立体的な消化管造影検査、内視鏡検査に類似した画像を作成することも可能です。更に、放射線被ばくを低減させます。撮影時、X線量を自動的に細かく調節し、最小の線量で最適な画像が得られるよう、制御を行う機能が備わっています。1画像あたり約半分程度の線量で撮影可能となりました。マルチスライスCTの様々な最新技術は、検査の情報を飛躍的に向上させ、患者さまの負担を減らします。当院CT室は患者さまに対し、より安全で高度な医療の提供を目指しています。

ここからは患者様に携わる看護師からのお話です。前の文章を読むと「えっ?そんな?良い機械になったけど、何に気がつかない?」なんて疑問を持たれたかも知れませんが、基本的に以前のCTとなら変わりはありません。CT検査を受けるのに大きく変わった所は一箇所です。息止めの時間が短くなったと言う部分です。造影剤を使用する場合は以前同様針を刺しますが、点滴と同じ針を刺させて頂きます。なぜかと言うとCTの機械が新しくなった分、造影剤の量は患者様の体重によって決

められます。その為、患者様一人一人により造影剤が身体に入っていくスピードが違います。そこでより安全に造影剤を身体の中に入れる為です。女性の方は体重を開かれても戸惑いがあるかも知れませんので、私達看護師にこそっとお知らせ下さい。しかしこれは一時的なものですから驚かないで下さい。看護師は必ず患者様のそばに居ますよ。特に喘息やアレルギー疾患のある方は医師や看護師に申し出て下さい。息止めの胸からお腹まで撮影してはほんの8秒前後です。あつと言いつきに検査は終了してしまします。患者様の中には「もう終わったの?」本当に検査したの?」なんて、物足りなさを感じられる方もおられます。でも大丈夫です。検査は確実に終わっています。安心して下さい。検査は早く終わります。終了してもその後には気分が悪くなったり、吐きが出たり、湿疹が出たりする方もあります。検査終了後5分位様子を見させて頂きます。そこで変化が無く、症状も出なければ針を抜いて各外来や会計に行ってください。但し、帰宅してからでも湿疹が出る場合もありますので、症状が出た場合は病院に連絡して下さい。造影剤を使用した場合は、身体の中から造影剤を排出する為に水分を500mlから1,000ml位飲むよりも多めに飲んで下さい。一回に飲まなくても良いです。何回かに分けて飲んで下さい。飲む物は特に制限がありませんので、水、お茶、コーヒ、紅茶、ジュースなど水分であれば何でも良いです。尿として造影剤が身体の中から排泄されます。何かあつと、そうだったんだが、CT検査について頂きましたか?医療者は患者様の健康を第一に仕事をしております。私達、看護師のお手伝いをして頂きます。患者様自身も自分の身体を自分で予防して行きますように。



## シリーズ 病気のお話し&lt;18&gt;

『褥瘡(じよくそう)』(床ずれ)とは? 形成外科部長 村尾 尚規 先生

褥瘡(床ずれ)とは、圧迫やずれが繰り返し加わることによって生じる皮膚の損傷のことです。皮膚が赤くなったり、薄く剥けたりする程度の浅い褥瘡はすぐに治りますが、皮膚や皮下脂肪が壊死し褥瘡が骨に達する程深くなつた場合はなかなか治りません。高齢化社会となった昨今、病院内でも家庭内でも、褥瘡の発症をいかに予防するかということが重要な問題となっています。

褥瘡を発症することが多いのは、何らかの理由で体力が衰え寝たきりや車椅子生活となった方です。その中でも、栄養状態が悪く痩せておしりの骨が出っ張っている、腕や脚の関節が突っ張っている、動かない、むくみがある、汗や尿、便の失禁で皮膚がむれていて、といった要素(褥瘡発症危険因子)がある方は、特に、褥瘡を発症する危険性が高いとわかっています。



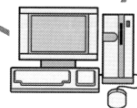
褥瘡を発症する危険性の高い方が、ベッドの上や車椅子の上で長時間同じ姿勢をとっていると、おしり(仙骨部、坐骨部)など一定の部位に圧力が加わります。また、きちんと座っている姿勢が保てずに椅子や車椅子からずり落ち

ちた状態になっていると、おしりや背などの皮膚にずれの力が加わります。圧迫やずれが、長時間かつ繰り返し加わることで褥瘡を生じることがあります。以前は、いかに治療するかということが重要視され、新しい薬や新しい手術法が開発されてきました。しかし、原因を取り除かない限り、褥瘡はいつまで治らないか、治っても再発するかのどちらかです。したがって、最近ではいかに予防するかに重点が置かれています。具体的に、もともとの病気を良くする、数時間おきに体の向きを変え、栄養状態を良くする、リハビリで体力や関節の動きを維持する、スキンケアを行うなどです。

褥瘡の予防、治療には医師、看護師だけでなく、栄養士、リハビリ療法士、薬剤師、そして、何より本人、家族の理解、協力が不可欠です。老々介護、独居老人等現在の社会環境では家庭で褥瘡を管理するのは難しい面があるので、我々医療スタッフと本人、家族が一緒になって理解を深めていくことが、問題の最大の解決策なのです。

## 患者図書室 インターネットコーナーのご案内

患者様やご家族が、病気や療養に関する知識を得るために、専門の書籍やビデオを準備しました。場所は、レストラン『ハマナス』の右横です。



◆ 利用日 ◆  
月曜日 ~ 水曜日  
(祝日は休みます)

◆ 時 間 ◆  
9時 ~ 12時

また、インターネット  
コーナーでは  
7時~19時までの間  
10分100円で  
インターネット  
接続可能です。



自由にご利用下さい!

## 編集後記

☆労災かわらばんの創刊時より、編集委員として活躍なさって頂いた、7委員様の深瀬光枝さんが中国労災病院へ派遣されます。長年関わって来た「かわらばん」としはしの別れです。患者皆様一言を☆

派遣看護師として  
旅立ちます



看護部 深瀬 光枝

昭和55年4月に釧路労災病院に入職した当時の事はまだ昨日の事のように覚えてます。初めは脳外科病棟に勤務しました。その頃はまだ、手術棟が中央化していませんでした。夜間の緊急手術の時は病棟看護士が手術室の中で手術が始まるまで外回りを手伝っていました。夜勤の時の思い出としては脳動脈瘤の手術後に認知症になった為、ある朝突然病室から居なくなりました。看護士や医師を動員して警察と一緒に釧路町まで捜しに行つて発見した事がありました。

患者様が無事で帰った事を良く覚えてます。新人の頃の楽しみは夏の甲子園と大相撲でした。大関貴乃花は小柄ながら横綱といつも大一番をとって頑張る姿を見せつけてくれた。そんな姿は私の心の支えになっていたように思います。その後は、内科病棟や整形外科病棟へ外來の勤務など忘れられない思い出が多くあります。そんな時代を懐かしく思っている所に、派遣看護師のお知らせがやってきました。長く住み慣れた釧路を離れ、中国山陽地方の広島へ転任する事になったのです。初めは余り実感がありませんでしたが、これが良い機会だと思ふのにそれほどの時間はかかりませんでした。広島は私の祖父や祖母の故郷に当たります。出会った事のない叔父や叔母兄弟達も、転地には多少の勇気が必要ですが、笑顔と絶やさぬ様に一杯頑張ろうと思ひます。世界遺産の宮島や海軍の戦艦大和など、山田の名所や四国・九州が近くにあり、まだ行った事のない地方を是非訪ねてみたいと思っています。派遣交流を目的なので中国労災病院の良い所を学んで来たいと考えています。私が無事に戻って来れるよう祈って、応援して下さい。下さるようお願い申し上げます。